

親切運動の取組について

南砺市立福光南部小学校
児童数 97名

1 親切運動の取組の紹介

(1) 運営委員会によるあいさつ運動

- ・主な取組について

毎朝、運営委員会のメンバーが交代で児童玄関先に立ち、登校する子供に挨拶をしてきた。

- ・成果と課題について

子供たちの声が大きく明るくなってきた。委員は、朝の時間を有効に使って意欲的に活動しているが、子供の思いを大事にしながら継続的にできるように活動を見守っていきたい。

(2) 各学年でのあいさつ運動

- ・主な取組について

11月に、各学年でよい挨拶を全校に広めることを目的としてあいさつ運動を行なった。玄関先に立って登校した子供と挨拶を交わしたり、各学年の教室を回って挨拶を呼びかけたりした。

- ・成果と課題について

各学年で工夫してあいさつ運動を行ったことで、挨拶をする心地よさを感じ、挨拶に対する抵抗感が軽減されたように感じる。あいさつ運動後も、校内で挨拶を交わす子供が増えた。一日の始まりが落ち着いた時間になるように、継続をして取り組める方法を構築したい。



(3) 地域の方とのあいさつ運動

- ・主な取組について

月に1～2回程度、運営委員会の子供と民生委員や育成会の役員の方々が一緒にあいさつ運動を行った。地域や保護者の方々は、登校した子供たちに温かい挨拶の声を届けてくださった。

- ・成果と課題について

普段会うことのない方とも、挨拶を交わす経験を積む貴重な機会になった。この活動を継続することで、どの子も普段は会わない地域や保護者の方々と心のこもった挨拶ができるようになってほしい。



2 親切運動に取り組んで

- ・取組の成果

令和5年度から続いている運営委員会による毎日のあいさつ運動が、全校の子供たちに定着してきた。今では、自分から進んで挨拶をする子供や、遠くから大きな声で挨拶をする子供の姿が多く見られるようになった。今年度は、「あなたに明るく温かい」挨拶を交わすことを目標にしており、子供たちに浸透してきている。

- ・課題と今後に向けて

登校時に子供同士や学校職員と挨拶を交わす習慣が定着してきたが、他の時間帯や来校者への挨拶の習慣が定着しているとは言えない。次は「いつでも どこでも 誰とでも」進んで明るい挨拶を交わす子供が増えるようにすることが課題である。

進んで明るい挨拶をする子供の姿が伝統となり、子供から子供へと受け継がれる学校をつくっていきたい。